

IV. 2020 年度実施事業等一覧

□RSL センター受託事業①

事業名	香蘭女学校高等科3年生「校外学習」への協力 (「香蘭女学校×立教RSLセンター ギャップイヤープログラム 2020」) 主催：香蘭女学校 共催：立教サービ斯拉ーニングセンター
日程 場所	2021年2月15日(月)から17日(水)計6校時 香蘭女学校
趣 旨	<p>聖公会関係学校のひとつである香蘭女学校より、立教大学に進学が内定している高等科3年生を対象にした校外学習の実施について協力依頼を受けた。</p> <p>香蘭女学校における2020年12月から2021年3月までの「校外学習」授業期間を活用し、立教大学入学後の学生生活をイメージし、香蘭での教育をもとに立教大生として活躍できる基礎作りを行うことを目標として複数のプログラムを実施する。特に初年次教育として展開しているRSL科目「大学生の学び・社会で学ぶこと」のエッセンスを受講することを通して上記目標の達成を目指す。</p> <p>受講する生徒にとっては、大学入学前の学習機会となり、香蘭女学校での学びを「立教大生」としての学びへと結びつける貴重な機会になると考えている。</p>
担当者	<p>○オーガナイザー 清水 由起子 (香蘭女学校教務部長) 藤井 満里子 (RSLセンター助教)</p> <p>○各授業担当者 中川 英樹 (本学チャプレン) 山中 淑江 (本学カウンセラー/現代心理学部教授) 逸見 敏郎 (RSLセンターセンター長/文学部教授) 藤井 満里子 (RSLセンター助教) 吉田 穂波 (産婦人科医/神奈川県立保健福祉大学教授)</p>
対象生徒	立教大学への進学が内定している香蘭女学校高等科3年生 (97名)
内 容	<p>□2/15(月) 対面授業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1時限 (09:00~10:40) 「キリスト教, 聖公会と立教大学」/中川英樹 ・2時限 (10:50~12:30) 「キャリアデザインからみた大学4年間」/藤井満里子 <p>□2/16(火) オンラインライブ配信授業 (生徒は講堂で受講)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1~2時限 (9:30~10:30, 10:40~11:30) 「リプロダクティブ&ライツと受援力を身につける」/吉田穂波 <p>□2/17(水) 対面授業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1時限 (09:00~10:40) 「大学生が会おうリスクとセルフマネジメント」/山中淑江 ・2時限 (10:50~12:30) 「大学生の学びと自己形成/3日間のまとめ」/逸見敏郎 <p>※RSL センター編集 (2017) 『リベラルアーツとしてのサービ斯拉ーニング』(北樹出版)に基づき、RSL科目「大学生の学び・社会で学ぶこと」の前半部分のエッセンスを扱う。</p> <p>※2020年度はコロナウイルス感染拡大の影響により、例年立教大学で実施するプログラム(香蘭女学校の生徒と立教大学の学生との交流プログラム他)の実施は中止となった。今年度の本プログラムは全て、香蘭女学校で実施し、対面とオンラインを併用した形での開催となった。</p>

□RSL センター受託事業②

<p>事業名</p>	<p>新潟県南魚沼市立栃窪小学校への授業協力 主催：新潟県南魚沼市立栃窪小学校 共催：立教サービスラーニングセンター</p>
<p>日程 場所</p>	<p>2020年11月30日（月）14：00～15：00 オンライン（Zoom）開催</p>
<p>趣旨</p>	<p>立教サービスラーニング(RSL)センターの実践系科目である「RSL-ローカル(南魚沼)」は、パイロットとして開始した2014年度からこれまで100名を超える学生が参加し、地元の皆さんに「学びの場」を提供していただいている。 また、本科目では、履修後も栃窪集落の方々との交流を続けている。例年、同小学校の校外学習の一環として、全校児童が育てたお米の販売を本学（池袋キャンパス）で実施し、加えて、キャンパスツアーや大学生との交流等とおして、互いに学び合う場を創出してきた。2020年度はコロナ下の影響もあり、栃窪集落の皆さんが本学に来校することは叶わなかったが、栃窪小学校より、オンラインでの授業協力依頼があった。本学が目指す学生の正課・正課外教育の往還を通じた学びや地域連携・社会連携教育の観点から、2019年度に「RSL-ローカル(南魚沼)」を履修した学生を中心にしながら、今年度も本事業を実施した。</p>
<p>参加者</p>	<p>栃窪小学校 児童11名、教職員6名（その他：NPO法人ECOPLUS&地域の方複数名） 立教大学 学生5名、RSLセンタースタッフ（センター長含む）6名 計30名程度</p>
<p>内容</p>	<p>地域(社会)連携の観点から、南魚沼市立栃窪小学校において特色ある教育活動の一環として実践されてきた全校児童11名による学校田の稲作(無農薬、コシヒカリの栽培活動)とその成果発表(授業)に本学の学生が参加する。「RSL-ローカル(南魚沼)」を履修し、実際に現地にて小学生と交流した本学学生が参加することで、コロナ下の影響で「県外での活動」が困難となっている栃窪小学校の子どもたちにとって実践的な学びの機会を提供する。</p> <p>※本学学生は、子どもたちの稲作(栽培活動)についての発表を聞き、発表内容についての感想を述べる他、立教大学での大学生活等の小学生からの質問に答える、大学生から栃窪地域に関する質問をするなど、オンラインで実施できる連携(交流)の機会とした。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> 

□RSL 企画事業

<p>事業名</p>	<p>「落語の授業」（「RSL-コミュニティ（池袋）」履修学生対象） 主催：後藤隆基（本学兼任講師）、立教サービスラーニングセンター 協力：立教大学チャプレン室事務課 「としまの記憶」をつなぐ会副代表理事 吉田いち子</p>
<p>日程 場所</p>	<p>2020年12月18日（金）13：25～15：05 立教大学 チャペル会館マグノリア・ルーム</p>
<p>経緯 & 趣旨</p>	<p>「RSL-コミュニティ（池袋）」のインタビュー活動において、インタビューの一人としてご協力いただいた三遊亭圓窓師匠（豊島区在住）より、「落語の授業」の開催（無償）についてのご提案があった。</p> <p>圓窓師匠自身、「池袋に限らず大きく豊島区に広げても、それを舞台とした古典落語は皆無」であったことから、ご当地噺として史実から創作された人情噺「鬼子母神 藪中の蕎麦」やご自身の池袋の受けた空襲の体験、記憶から「半分っ子」を創ったという経緯がある（『添 口に新しさを 豊島創作噺誕生 勉強会』圓窓高座本 特別号 四十六 アンノ巻 2021年 40～41頁）。</p> <p>本科目を担当する後藤先生とも相談し、圓窓師匠のこのご提案は、地元をみつめ、「落語」をとおして地元の歴史や文化を創っていく作業という過程に触れるとともに、一市民とコミュニティの関係性といった本科目の趣旨にも沿う、大変貴重な機会であると判断した。</p> <p>コロナ下で大学構内での授業も難しい状況ではあったが、「としまの記憶」をつなぐ会の吉田いち子氏や本学チャプレンをはじめとした、チャプレン室事務課の皆さまの全面的な協力も得て、コロナ対策を講じたうえでの任意参加（授業の一環）とし、対面で「落語の授業」を企画・実施した。</p> <p>入学以来、コロナ下の影響により大学に一度も訪れたことがないという学生もいたなかで、圓窓師匠やお弟子さんのお二人をはじめ、本企画実施にあたり、本学学生の「学びの場」の提供にご尽力くださった全ての皆さまに感謝申し上げます。</p> <p style="text-align: right;">RSL センター教育研究コーディネーター 福原 充</p>
<p>参加者</p>	<p>学 生：20名（当日参加12名）*参加出来なかった学生には事後に動画で共有 その他：演者3名、地元協力者1名、担当教員1名、RSL センタースタッフ3名</p>
<p>内 容</p>	<p>□演目 「鬼子母神 藪中の蕎麦」 升味亭空女 「元犬」 天祖亭三味 「半分っ子」 三遊亭圓窓</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <div style="text-align: right; margin-top: 10px;">  </div>

□発 表 (学会またはフォーラム等)

フォーラム	日本シティズンシップ教育フォーラム (J-CEF) 『主権者教育における高大接続改革を考える』 (シティズンシップ教育ミーティング 2021 シリーズ企画)
日 程	2021 年 3 月 21 日(日)10:30～12:00 (オンライン[Zoom]開催)
趣 旨	<p>2022 年度に予定されている成年年齢の 18 歳への引き下げ、2018 年及び 2019 年に改定された新学習指導要領に代表されるように、日本の主権者教育の議論は、いかにして「主権者として必要な資質・能力を確実に身に付けていくのか」が重要な論点となっている。</p> <p>文部科学省「主権者教育推進会議」が 2020 年 11 月に公表した「今後の主権者教育の推進に向けて(中間報告)」では、「大学段階における主権者教育の在り方」が今後の残された検討課題の一つとして位置づけられ、この文脈で高大接続改革にも注目が集まっている。</p> <p>本セッションでは、文部科学省「主権者教育推進会議」委員を務める小玉重夫さん(東京大学教授/立教大学兼任講師)が、2016 年度から立教サービスラーニング(RSL)科目「シティズンシップを考える」において実践する高大連携型授業の本年度報告とこれにもとづく話題提供を行う。</p> <p>続いて、これに関連する 3 つのテーマについて香蘭女学校教諭の中田奈穂美さんと立教サービスラーニングセンター関係者がそれぞれ報告を行う。</p> <p>これらをもとに、高大接続ならではの主権者教育の新しい可能性、さらには大学段階における主権者教育のカリキュラムデザインのあり方について、皆さんと議論できればと思います。コロナ禍に見舞われた本年度は、授業は全てオンライン形式で行われました。議論ではバーチャル・ラーニングを通じた高大接続改革の可能性についても意見交換できればと考えている。</p> <p><出典> J-CEF HP より (http://jcef.jp/news/bosyu/20210310_1598/) ※RSL センターより教育研究コーディネーターの福原充・大森真穂が参加し、発表した。</p>
内 容	<p>1) オープニング</p> <p>2) 話題提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ○小玉重夫 (東京大学教授) 「大学段階における主権者教育と高大接続について」 ○中田奈穂美 (香蘭女学校教諭)、高校生 (香蘭女学校) 「高大接続への取り組みからみえてきた高校生の学び」 ○福原充・大森真穂 (立教大学立教サービスラーニングセンター教育研究コーディネーター) 「立教大学における立教サービスラーニング (RSL) の展開—今後の可能性と課題—」 ○藤枝聡 (立教大学国際センター/元立教大学兼任講師) 「コミュニティ・サービスラーニングの実質化に向けて—池袋での RSL 実践を手がかりに」 <p>3) 全体ディスカッション</p> <p>4) クロージング</p> <p>※当日参加者は全体で約 20 名。紙幅の都合で詳細は割愛するが、当日は、主に次の 2 点について議論され、課題が確認された (①高校・大学間における教員及び教育内容の連携②科目単体ではなく、カリキュラムデザインとしてのシティズンシップ教育の展開)。</p>